

## 国、福岡県等の支援機関一覧

<p>国 中小企業庁 中小企業庁 HP</p> <p>☎ 03-3501-1511</p> 	<p>国 中小企業庁 ものづくり補助金</p> <p>☎ 050-3821-7013</p> 
<p>国 中小企業庁 持続化補助金</p> <p>☎ 03-6632-1502</p> 	<p>国 独立行政法人 中小企業基盤整備機構 IT 導入補助金</p> <p>☎ 0570-666-376</p> 
<p>国 中小企業庁 中小企業省力化 投資補助事業</p> <p>☎ 0570-099-660</p> 	<p>国 中小企業庁 福岡県よろず支援 拠点（相談窓口）</p> <p>☎ 092-622-7809</p> 
<p>県 中小企業振興課 中小企業向け 支援策ホームページ</p> <p>☎ 092-651-1111 📍 博多区東公園 7 番 7 号</p> 	<p>県 中小企業振興課 中小企業者向け 「新製品開発補助金」</p> <p>☎ 092-643-3433 📍 博多区東公園 7 番 7 号</p> 
<p>県 中小企業振興課 福岡県中小企業 IT 導入・賃上げ緊急支援補助金</p> <p>☎ 092-643-3425 📍 博多区東公園 7 番 7 号</p> 	
<p>県 中小企業振興課 県制度融資ホームページ</p> <p>☎ 092-643-3424 📍 博多区東公園 7 番 7 号</p> 	
<p>県 福岡県中小企業振興センター 福岡県中小企業振興センター（相談窓口）</p> <p>☎ 092-622-6230 📍 福岡市博多区吉塚本町 9-15</p> 	



# 宗像市の中小企業支援ガイドメニュー

## 創業したい方 → P2

まずはここから

→ 創業相談の無料窓口

宗像で創業する方の費用の補助

→ 宗業者応援プログラム

## 創業後の方 → P3

経験豊富な支援人材が事業者の成長・発展を支援

→ 伴走型創業支援プログラム ・活用インタビュー P5/P8

創業のために融資を受けた方に係る利子補助

→ 起業化支援利子補給補助金 ・活用インタビュー P6

宗像で創業する方の費用の補助

→ 創業応援補助金（”宗業”者応援補助金） ・活用インタビュー P5/P6/P10

どなたでも参加できます！

→ 宗像ビジネス交流会（むな BIZ）

## 事業運営中の方 → P4

新事業、販路開拓、生産性向上、人への投資に係る費用を補助

→ がんばる中小企業者応援補助金 ・活用インタビュー P5/P8/P9

クラウドファンディング型ふるさと寄附で、事業に係る経費を補助

→ ふるさと寄附活用事業者応援補助金 ・活用インタビュー P7

特産品の開発やイベント等の実施に係る費用を補助

→ 食のまち宗像推進補助金

経営課題の解決をサポートする人材の活用を支援

→ 副業プロ人材活用支援事業 ・活用インタビュー P10

## → 創業したい方

### 創業相談の無料窓口

→ **fabbit 宗像**

問 ☎ 0940-62-6030 電話予約制 遠方場合はオンライン相談も対応可能です

相談開催日：毎月第1・2・3火曜日 / 時間：14:00-18:00

宗像市では、fabbit 宗像を「創業支援拠点」とし、事業者向けのセミナーや交流会などの実施を行っています。レンタルオフィス・コワーキングスペースもあります。



→ **商工会**

問 ☎ 0940-36-2268

商工会は、市内事業者を非営利で支援しています。経営指導員による個別の経営指導や面談、社会情勢に応じたセミナーの開催など事業者を支援する事業を行っています。



### 宗業者応援プログラム



商工会、fabbit 宗像、宗像市がセミナーや相談を通じて事業計画書など創業に必要な心構えや準備をお手伝いし、支援するプログラムです。要件を満たした受講者には宗像市より「支援を受けたことの証明書」が交付され、下記支援が受けられます。

STEP  
01

計4回以上、1ヶ月以上の支援を受ける

・商工会、fabbit 宗像の創業相談 又は 創業セミナー  
→ 受講修了証をもらう



STEP  
02

宗像市で証明書を発行してもらう

・申請書と事業計画書を提出



STEP  
03

各種支援制度に申し込む



プログラム受講者の支援

- 1、会社設立時の **登録免許税の軽減**  
株式会社・合同会社の登録免許税が資本金の0.7%から0.35%に減免
- 2、創業関連 **保証の特例**  
無担保、第三者保証人なしの創業関連保証を事業開始6か月前から利用可能
- 3、貸付 **利率の引き下げ**  
新規開業支援資金の貸付利率の引き下げの対象として、同資金の利用が可能
- 4、" **宗業** "(創業)者**応援補助金** の要件  
宗像で創業する方の費用の一部を補助

対象者  
・創業を行おうとする者（事業を営んでいない個人）  
・創業後5年未満の者（事業開始後5年以内の個人または法人）

※各種支援を受ける要件がありますので、各機関にお尋ねください

## → 創業後の方

## 伴走型創業支援プログラム



創業してスタートダッシュをきるための事業計画の策定や社会情勢・環境変化などの事業者が抱える課題に対して、経験豊富な支援人材が6ヶ月間の伴走支援を行い、事業者の成長・発展を支援します。

**対象者** ・宗像市内に事業所・店舗等を有し、事業を実施予定（実施済）の方  
・次のどちらかに該当する方

- 年度内に起業予定の方または事業を開始した日以降5年を経過していない中小企業者（注1）
- 既に起業している場合、年度内に新分野進出や新事業展開に挑戦する中小企業者

（注1）中小企業者とは、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条第1項に該当する方とします。

## 起業化支援利子補給補助金



創業のために指定の融資を受けた方に係る利子を3年間（36か月間）補助します。

**対象者** ・創業のために日本政策金融公庫又は福岡県中小企業振興資金融資制度のうち新規開業資金の融資を受けた方

**補助額** ・1月1日から12月31日までに返済した貸付金利の範囲内とします

**上限額** ・貸付回数にかかわらず年間10万円まで

## 創業応援補助金（”宗業”者応援補助金）



”宗業”（宗像で創業）する方の費用の一部を補助します。

**対象者** ・補助金交付年度内に創業する予定の方  
・創業後1年未満の方  
・事業開始後5年未満であり、宗像市内で法人成り後1年未満の会社または交付申請時と同年度に宗像市内で法人成りしようとする個人

**補助額** ・補助対象経費の2分の1

**上限額** ・通常枠：30万円 SDGs枠：40万円

## → セミナー・交流会

## 宗像ビジネス交流会（むなBIZ）



事業者主体の交流を促進し、経営力向上や新規ビジネス創出等を後押しするため、有識者による事業者向けセミナーや交流会を開催します。

**対象者** ・だれでも参加可能

## → 事業運営中の方

## がんばる中小企業者応援補助金



市内商工業者の活性化を図り、宗像市の稼ぐ力を強化するため、新事業や販路開拓、生産性向上や人材不足・インバウンド観光客への対応のために市内事業者が行う事業活動に係る経費の一部を補助します。

**対象者** ・宗像市内で1年以上継続して事業を行っている方  
・宗像市内に店舗を有し、事業を行っている方  
・個人事業者については、市内居住者であること

**補助額** ・補助対象経費の2分の1（市内事業者へ発注した補助対象経費は3分の2）

**上限額** ・50万円（新たに経営革新計画の承認を受け実施する事業は100万円）

## ふるさと寄附活用事業者応援補助金



市内の商工業及び農林水産業の活性化を図るために中小企業者等が実施する事業に対し、クラウドファンディング型ふるさと寄附により集まった寄附金の範囲内で、補助対象事業に係る経費を補助します。

**対象事業** ・中小企業者  
・特定非営利活動法人  
・農林水産業者  
・創業者  
・地域の課題解決及び地域産業の振興・活性化につながる事業  
・宗像市内で実施する事業  
・補助対象経費が100万円以上の事業  
・寄附金が目標額に達しない場合でも実施する事業

**補助額** ・宗像市ふるさと寄附を活用して集まった寄附額から手数料等を控除した額。

**上限額** ・補助対象経費の額

## 食のまち宗像推進補助金



市の食材を活用した販路拡大・域内消費の促進による商工業の振興を図るため、地域資源等を生かした特産品の開発、食材や伝統料理に関する創造的なイベント等の実施に係る費用の一部を補助します。

**対象者** ・市内に事業所又は店舗を有し、市内で事業を行っている方

**対象事業** ・地域特産品開発支援事業  
・食を生かした販わいづくり事業

**補助額** ・補助対象経費の2分の1

**上限額** ・20万円

## 副業プロ人材活用支援事業



事業者が抱える経営課題を解決する一助として、経営課題の解決に最適な方法をサポートする副業人材の活用を支援します。

**対象者** ・宗像市内に店舗を有し、事業を実施している方

## 補助金を活用した事業者さんに取材しました！

### 相部さんのジャム屋開業物語

開業から開業後のフォローまで  
プログラムが充実だった

管理栄養士の資格をもつ相部さん。子供の頃から美味しいものを食べることが大好きだった。結婚を機に宗像に移住し、地元食材の美味しさと種類の豊富さに感動。子供が幼稚園に入り、時間が空ようになったのをきっかけに、何か食の部分で自分のやりがいを感じられる仕事を始めたいと考えた。「宗像で育った美味しい農産物を使って、素材そのものの味を活かしたジャム屋を開いてはどうか」と思いついた。

#### 補助金を知るきっかけ

食品卸の営業経験はあるものの、製造業や事業の立ち上げは未経験だったため、何から始めていいかわからない状態だった。そこでインターネットで検索すると、商工会にたどり着いた。「最初の相談ができない人もいるかもしれませんが、助けてくれる人がいるなら助けてもらおうという気持ちで商工会に飛び込んだ」と当時を振り返る。食品を製造するためには製造許可が必要であり、そのための設備に初期費用がかかるため、その旨を相談すると、創業者応援補助金について教えてもらい、活用することになった。補助金は、家賃や敷金礼金の他、業務用冷蔵庫や調理道具にも活用することができた。さらに規格外の食材を活用することでSDGs 枠での補助金申請ができたため、社会的意義もある事業としてのスタートが実現した。

#### メゾンスワロー：



#### 申請書類の作成も大きな補助に

振り返ると「事業計画を書くことで、競合性や市場性、自社の強みなどを整理する機会が得られた」と相部さん。具体的な目標に向かって進む道しるべができたと感じたそう。

#### スモールスタートから始める

補助金の申請と同じタイミングで出会った不動産屋との縁により良い物件が見つかり、当初の計画通り初期投資を抑えたスモールスタートでの開業が2022年9月に実現した。

#### 開業後の壁

2023年3月には商品の販売が開始したが、半年後には販路開拓が大きな課題となった。「自分がどの方向性で進んでいけばいいのか迷っていた時、市の産業政策課から7ヶ月間の伴走支援プログラムの存在を教えてくださいました。このプログラムでは、専門家からのアドバイスを受けることができ、非常に心強い支援となりました。」と相部さん。

2次面接の際に、「製造委託や栄養成分計算を売上拡大のために考えている」と伝え、メゾンスワローというブランドに魅力を感じるから、それを生かす方向で進めてみてはどうか」とアドバイスをを受け、半年間の伴走支援プログラムを活用しながら、ブランドの確立に注力していく内容で事業の方向性を定めていった。

#### ビジネス目線での軌道修正

専門家からのアドバイスによりターゲット層や売価の見直しなど、事業継続に必要な軌道修正をビジネス目線で行うことができた。「商談の場では弱気になることもありましたが、支援を受ける中で、商品の価値を明確に伝えることができるようになった」と当時を振り返る。

#### 展示会出展と販路拡大

伴走支援が終了して数ヶ月後、産業政策課の担当者より、「食のまち宗像」のPRの一環として、フードエキスポ九州での展示会があるので、参加してみないかと提案され、チャレンジすることを決意。展示会にかかる費用を補助してくれる、がんばる中小企業者応援補助金があることも知り、ブースのタペストリーやテーブルクロス、配布資料の制作費に活用し、万全の対策で参加することができた。展示会では、普段出会うことができないような企業のバイヤーと話す機会を持つことができ、百貨店のカタログ掲載が決まったり、福岡空港の売店 SOLAE での取り扱いが始まったりと、販路が大きく広がった。

また、「当初はスーパーや百貨店、食品ギフトカタログが販路と考えていたところ、雑貨店に文房具や美容器具を卸している商社の営業さんとの出会い、雑貨屋でも食品を扱っていることを知り、新たな販路を開拓することができました」と相部さん。現在、ツタヤの4店舗（東京・茨城・千葉・福井）や文具のたまおきさんとも取引が始まり、販路は着実に拡大し、展示会での出展が大きな成果をもたらした。



#### 補助金の活用を考えている方へのメッセージ

「宗像市には応援してくれる支援制度が色々あるので、まずは話を聞いて1歩を踏み出してみようと思います。勇気を出して相談することで、新たなチャンスにつながる可能性があると思います。」

# 伴走支援プログラム  
# 創業応援補助金  
# がんばる中小企業者応援補助金

TacoTaco:



### 島の特産品をつかった テイクアウト店をオープン

大島に嫁いできた遠藤さん。島内の農協で働いていたが、家族旅行で韓国を訪れた際に出会ったスイーツ店が新たな夢のきっかけとなり、テイクアウト専門店を開くことになった。しかし実際に開業となると、何から手をつけていいかわからず、同じ大島で飲食店を営んでいた義理のお母さんに相談。「商工会に行くといよいよ」と進められ、担当者を紹介してもらった。

#### 思いのほか大変だった申請書類の準備

商工会で、創業応援補助金と起業化支援利子補給補助金の存在を知った遠藤さん。実際に補助金の申請をする中で、コンセプトなどの必要項目を考えたり、文章化する作業が難しく、書類の申請や確認のために何度も渡船し、書類の申請に苦労した。

「それでも商工会の担当の方が想いが伝わりやすい文章にするためのアドバイスをくれたおかげで、申請書類を完成することができました」と振り返る。

#### テイクアウト店も無事にオープン

大島の特産品である甘夏や塩を使ったスイーツや、大島のタコを使った軽食のテイクアウト専門店を開業。間もなく遠藤さんの新たな家族も誕生し、家族の温かい協力を受けながら、子育てとの両立に奮闘している。

子育てをしながらスローペースで営業をしているが、子育てが落ち着いたらお店もフル回転で頑張りたい。今後はもっと島の特産品を活かした商品を増やし、観光客に喜んでもらえるお店を目指していきたいそう。

#### 補助金の活用を考えている方へのメッセージ

「書類作りは大変ですが、補助金は本当にありがたい存在なので、ぜひ活用してもらいたいです。」

# 創業応援補助金  
# 起業化支援利子補給補助金

有限会社  
カナディアンキャンプ：



## 牧場の安全性と魅力向上への挑戦 短期間で大きな成果に

宗像市大島の風車展望所と砲台跡を囲むように広がる60,000㎡の養老馬預託・仔馬育成牧場のカナディアンキャンプ大島牧場。「元々牛舎として長年使用されてきた建物を厩舎として活用しているの、柱がさび付いているなどの老朽化が進んでおり、近くを通る観光客の目に触れる部分が特に気になっていました」と担当の劉さん。他にも敷地内にあった牛の放牧用の有刺鉄線は、観光客やトレッキングを楽しむ人々にとって危険な要素にもなっていたと語る。さらに飼育目線と言うと、馬用の繋ぎ場や手入れのためのスペースも不足しており、雨漏りもあった。デリケートな養老馬や仔馬の厩舎としては、衛生状態が良くなかったので、馬がストレスなく過ごせる環境を自然に近い形で改善したいと思っていた。

2024年の夏、市の産業政策課で「ふるさと寄付活用事業者応援補助金」があることを知った。社内でも検討し、観光客の目線と飼育目線の両方から環境を改善するために補助金を申請することにした。市の所有物であるため、建て替えではなく既存の施設を保全し修理する内容で、また世界遺産の島でもあるので、自然や歴史の部分で調和のとれたものにするために、木製のものに変える内容で申請をすることになった。

### 短期間での挑戦が始まる

まずは市の担当職員と相談し、目標金額の設定をした。「申請後は実施が義務付けられ、規模を縮小してでも実行しなければならないので、達成できなかった場合の不安もありました」と当時を振り返る。大変だったのは、書類作成。どういう企業なのか、どういう想いか、将来どうなっていきたいかなど、しっかり考えておかないといけない内容だった。そこからは、どう協力してもらうか、まずは会員の方々を中心に周知していくことを始めた。「何も知らない人への周知よりも会員さんの方が自

分達のことを知っているのだから始めた」と語る。それでも簡単にはいかず「最初は目標額の5%しか達成することができておらず、出鼻をくじかれた感じだった」と劉さん。しかし市の担当が、打合せのたびに「12月になったら増えると思うので、あきらめずに頑張らしましょう」と声をかけ励ましてくれた。

周知は自社の乗馬通信に掲載し、ホームページにも載せた。SNSでも定期的に経過報告をしながら地道にやっていった。カナディアンキャンプは、年配客の割合が多いのでSNSや支援サイトからの申し込みができず、遠方から来て現金を渡してくれる会員さんもいた。そのような方々には振込用紙を渡して対応した。

結果、予想を大きく上回る金額が集まった。「最初は心配していたものの、実際には多くの方が関心を持ってきていたことに驚きと感動を覚えた」と劉さん。自分たちの取り組みが多くの人に響いていることを実感し、心から嬉しく思ったそう。

### 目標額を達成したらずいぐに実行

手続きを終えた後は、すぐに工事の手配をし、実行に移さなければならなかった。「期限に追われることが多く大変でした」と劉さん。しかし「こうした経験がなければ、ここまで動くことはできなかったと感じています。半年という短い期間の中でゼロから進めることは、本来なら難しいことなのですが、今回の補助をきっかけに、金銭面や方向性のある程度決めて進められたことが成功の要因だと思います。そして今回の挑戦は、島にもっと多くの人々が訪れ、島が活性化する未来への足がかりになると信じています」と語る。

### 補助金の活用を考えている方へのメッセージ

「リスクや不安な面は必ずあると思うけど、この機会がなければこんなに動けなかったらどうなという側面もあり、この内容を半年ぐらいうちに自分たちでゼロからすすめられたかということ、ある程度決まった枠で目指しているというのがあったから進めることができたと思う。チャレンジしたいことや、変えたいことがあるなら、活用して良いきっかけにしてほしいと思います。自分たちだけじゃできない壁を、市と一緒に乗り越えましょうということでお手伝いしてくれたので、それをうまく活用してトライしたらいいんじゃないかなと思います」

#ふるさと寄付活用事業者応援補助金

本田工業株式会社：



## 顧客との接点を広げるための 新たな事業展開へ 中小企業を応援するための補助金

本田工業は、ブロック工事や屋根工事、エクステリアなどを専門に手掛けている。今後お客様との接点を増やし、もっと売上を上げることができないかと考えていたところ、顧客が自社製品を手にとって相談できる場所を作るために、自社の空いた土地を利用してカフェを開業するアイデアが生まれた。本田さんはまず商工会を訪れ、市の補助金について相談した。

### アイデアを形に

商工会では、当初考えていた補助金とは違う「がんばる中小企業者応援補助金」を提案されたが、幅広い用途で活用ができる内容だったため、申請をすることにした。「申請は比較的簡単で、中小企業を支援するための内容だった」と本田さん。2024年6月に申請し、7月には交付が決定し、カフェの開業に向けて動き出した。

### 物販と相談スペースの新しい提案ができる場

店舗は、物販や建築工事、リフォームの相談ができる空間に。さらに展示スペースも設けた。それにより顧客が資材のサンプルを目にする機会が増え、実物を見てから工事や購入を決めるお客様が増加し、成約率も上がった。「工事を頼むかわからないけど相談だけでもいいです」というお客様が結構いたので、そういうお客様にも気軽に来ていただけるきっかけ作りもできた」と語る。

### 補助金の活用を考えている方へのメッセージ

「何か新しくやりたい事業を考えている人や、売上げが伸び悩んでいる方は自分たちがやりたいことをある程度文章にして相談してみてください。文章作成が苦手でも地域の中小企業のための補助金なので、意外と簡単に申請ができると思います。ぜひチャレンジしてみてください」

#がんばる中小企業者応援補助金

マサエイ水産加工：



## 展示会に出店し、 新しい販路拡大につながる 新しい挑戦を踏み出す一歩に

元々鐘崎で「あま」を代々続けている家庭で育ち、あま業をやっていた正好さん。鐘崎全体の漁業の活性化もできればと、あま業を休業し、大阪の水産加工会社で勉強。その後鐘崎に戻り、アカモクを中心とした水産加工会社を立ち上げた。

### 販路拡大を目指し、展示会に参加

今回2度目となる「がんばる中小企業者応援補助金」は、展示会用に、チラシや荷物の配送費、冊子、新商品のサンプルレベルの作成に活用した。

「前回もそうだったが、補助金は費用面での助けが大きだし、書類作成も市からのサポートがあったので、難しさは感じなかったです」と正好さん。今回特に、アカモクの容器をアルミからパウチに変更し、現地で配布して、販路拡大につなげたいという考えがあった。結果的に、名古屋の外食向け商社との取引が始まり、福岡ではイオン九州での取り扱いも実現。新規顧客の獲得につなげることができた。また、既存の取引先にも新商品の「缶べえ」を提案することもでき、販路拡大にも繋がった。

### 補助金の活用を考えている方へのメッセージ

「新しい挑戦をするために補助を受けると、軽く1歩を踏み出しやすくなり、チャレンジをしやすくなるので、有効的に動けると思います」



#伴走支援プログラム  
#がんばる中小企業者応援補助金

ミノリピラティス：



## やりたいを次々と形に 安心して前に進むことができた

ミノリピラティスの友末さんは、もともと理学療法士としてのキャリアをスタートさせていたが、半年が経過する頃には起業を見据えヨガの勉強を始めていた。社会人2年目からは、実際にヨガ講師として仕事をかけもちし、起業の道へと進む。

### オンラインピラティス教室から始めた起業

最初に始めたのが、実店舗をもたないオンラインでのピラティス教室だった。何から始めればいいのかわからなかったため、市の産業政策課の担当に相談。伴走型創業支援プログラムの存在を知った。

プログラムの支援は、実際にお店を運営されている方からのアドバイスを受けたので、数字の見込みが大変参考になったと友末さん。「特に価格設定は、理学療法士としてのボランティア精神から、高い金額設定ができずにいたんですが、専門家のアドバイスを受けて客観的に価格設定を見直すことができました。」と振り返る。

軌道に乗り始めると、次は実店舗の運営に展開していった。この際も同プログラムを活用。「実店舗の立上げの際、プログラムの活用で大変だったことは、私の進めていくスピードが速すぎて、月に1回の支援ペースに合わせるのが難しかったことです。その間に物件探しも進めていたため、支援を受けながらも時には事後報告になってしまうこともありましたが、それでも、チラシのデザインなど、具体的に聞きたいポイントをしっかりと聞けたのは良かったし、相談できる人がいるという安心感も、大きな支えになりました」と当時を振り返る。結果、2年間で実店舗を5店舗に展開。今ではスタッフを総勢30人かかえるスタジオになった。

### さらなる展開に～発酵食品カフェの創業～

ピラティス教室を通じて運動の重要性を伝える中で、お客様の健康にとって食事も大切だと考えるように。がんばる中小企業者応援補助金を活用し、発酵食品を中

心とした体に優しい料理を提供するカフェを開業した。**補助金の活用を考えている方へのメッセージ**  
「ひとりで悩みながらもがくよりも、誰かに相談して一緒に動く方が、ずっと安心感があります。そうすることで、成功する可能性もぐんと高まると思います」

# 伴走支援プログラム  
# がんばる中小企業者応援補助金

株式会社 大風：



## 産業振興への取り組み 大島日本酒プロジェクト発動 最初のきっかけをいただけるのは 事業者にとって大きな価値

30代で独立を考えていたところ、社内での事業立ち上げに関わるようになった吉田さん。その中で宗像の地域再生事業に参加することになった。独立後、これがきっかけとなり、大島の産業振興の取り組みがスタートした。

### 島の経済構造を変えたい想いから始めた米作り

大島のお米は美味しいが、魚に比べると付加価値をつけるのが難しいと感じていた。島に関わって1年目、実際にお米を作ってみたが、生活ができる経済状況にはならないと実感した。島から出ていく若い人を呼び込むためには、島の経済構造を変える取り組みが必要だと強く思った。付加価値を高めて販売価格を上げるために、何かできることはないかと考えていた。

### 想いを言葉にするといろんな話が入ってきた

そんなことをいろんな人に話していた矢先、周囲の方から「お酒も作れる」とのアドバイスを受けた。2年目は大島のお米を使った日本酒を作ってみることを決意し大島日本酒プロジェクトが始まった。日本酒作りの準備をしていると、市の担当に補助金の話を知ってもらう。多くの機会を得た

「補助金は、お金の面でももちろん助かりましたが、何よりも宗像市職員との連携した取り組みができたことが大きいかなと思っていて、むなBIZでみなさんに呑

んでもらえるようにしてもらったり、東京宗像会に出る機会もいただいた」と吉田さん。「補助事業でありつつ、市も関わっている事業となったら、最初のチャンスをもたらるので、そのチャンスを生かすか殺すかは自分次第で、その席に立たせてもらえるのはとても大きなこと」と語る。本事業は、まだ営業の段階で販売までには至っていないが、可能性はたくさん出ており、販路拡大には確実につながっているとのこと。

### 補助金の活用を考えている方へのメッセージ

「自分がやりたいことが明確であれば、補助金を活用することで多くの機会が得られます。お金よりも、市とのパートナーシップこそが事業の価値であり、顧客獲得の最初のきっかけをいただけるというのは、事業者にとってはそが全てだと思っています。事業を広げるためのネットワークを一緒に構築できることは、大きいです。」



日本酒のラベルは、玄海の  
瓜の輝きと、風がないと空  
気が淀み、霞がかって見え  
にくくなる大島の海の様子  
を瀾りて表現。優雅なデザ  
インは、食前酒や食中酒に  
ぴったりで、宗像市大島の  
魅力を感じさせる一杯を届  
けたいという願いが込めら  
れている。

# がんばる中小企業者応援補助金

株式会社 SMILE HOME：



## 空き家問題に挑む吉田さんの挑戦 空き家活用と新たなビジネスの創出

宗像市役所の近くで不動産業を営む吉田さん。30歳の時、専業主婦から不動産業界に就職し独立。身近な空き家問題の根本に不動産と相続があると考えた吉田さんは、不動産・相続・終活のことをまとめて一括で相談できる窓口を設け、地域の空き家問題に取り組みながら、空き家活用を通じて新たなビジネスのつながりを創出したいと考えていた。ふとしたきっかけで目に飛び込んできた

fabbit主催の副業プロ人材活用セミナー。「最初は補助金を受けるつもりもなく、古民家を活用したオーベルジュの運営をしている方がパネラーだったのを見て、話を聞いてみたいと思った」と吉田さん。

### 異なる視点を持つ人材を活用できる

「実際に話を聞いてみたら、働く人を雇用せずとも、トライしやすい金額で、第一線で活躍するプロが中小企業のサポートに入ってくれる点が面白そうだなと思って」と吉田さん。「人を雇うのはハードルが高いけど、このプログラムなら合えば継続することも可能。自分とは異なる視点を持つ人が入るため、新しいことを教えてもらう側になることができるのも魅力でした」と当時を振り返る。

ちょうどその頃、相談を受けている古民家があった。歴史のある古民家の価値を大切にしたいと思っており、古民家活用の経験のある人材の協力を得ることで、新たな可能性を見出せるのではないかと感じていた。実際にマッチングしたのは、市内で古民家のオーベルジュを運営するシェフの手伝いをしていた方で、「古民家ビジネスの可能性や、どのような人脈を利用すればよいかを学びたかったのも狙いの一つでした」と振り返る。プログラムは短期間なので、様々な課題に直面したが、直面した課題の一つ一つが貴重な学びとなった。「結果として新たな視点が広がっただけではなく、同じプロ人材に参加している地元の事業者の方々とつながることができたのも大きな収穫でしたね」と吉田さん。つながりの中でコラボビジネスのアイデアも生まれた。

### 自分のビジネスにも新たな可能性が広がった

この機会を通じ、空き家の活用方法として民泊やレンタルスペースの可能性を考えるようになった。特に古民家という特殊な物件を利用することで、地域の資源を有効活用するアイデアが生まれた。「新しいことをやってみようと思えたきっかけになったのも、目に見える効果かなと思いますね。」と吉田さん。

### 補助金の活用を考えている方へのメッセージ

「ひとりでは視野が狭くなりがちだからこそ、人との交流や異なる考え方に触れることが大切で、学びの良い機会になると思うので、ぜひ積極的に活用してみてください。」

# 副業プロ人材活用プログラム